

平成 30 年 10 月 1 日

平成 29 年度 学校関係者評価委員会報告

学校法人平成医療学園
なにわ歯科衛生専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人平成医療学園 なにわ歯科衛生専門学校 学校関係者評価委員会は、平成 29 年度自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員 出席者

(外部委員)

宮内 修平	(みやうちデンタルクリニック 院長・日本歯科審美学会 会長)
藤川 みどり	(五條歯科医院 事務長・歯科衛生士)
吉岡 宏之	(株式会社ヨシオカ 代表取締役社長)
亀岡 伸行	(株式会社ヨシオカ 取締役 営業部部長)

(内部委員)

雫石 聡	(なにわ歯科衛生専門学校 校長)
淵端 孟	(なにわ歯科衛生専門学校 名誉校長)
岡田 光司	(なにわ歯科衛生専門学校 担当理事・顧問)
松本 啓子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務顧問)
中西 久美江	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)
成尾 秋子	(なにわ歯科衛生専門学校 教務主任)

当日欠席者

品田 和子	(公益社団法人 大阪府歯科衛生士会 専務理事)
小谷 泰子	(医療法人美和会 平成歯科クリニック院長・大阪府歯科医師会 理事)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

開催日:平成 30 年 9 月 24 日(月祝) 10 時 00 分～13 時 30 分

開催場所:なにわ歯科衛生専門学校 2 階会議室

3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

本校は歯科衛生士の人材育成が目標であり、当然それに必要な知識技能を修得するとともに、医療人としての人間性を重んじた教育を念頭においている。

現在、ますます高齢化社会が進んでおり、それに対応する歯科衛生士として業務も深化している。歯科医療現場に携わる講師を招致したり、老人ホーム等多岐に渡る臨床実習を行ったりしているが、時代の動きが早く、ニーズに追いついていないのが現状である。

業界の方の力も借り、ニーズにこたえられる歯科衛生士の育成に努めていく。(委員長)

業界としても同様の問題を抱えており、卒業しても何をしたらいいかわからない、就職しても歯科衛生士自体を辞めてしまうといった方もいる。厚労省からも辞職防止や復職支援に力を入れるよう話が出ており、対応に努めている。仕事をしていけば楽しいこともあるのに、知らないままではもったいない。(外部委員)

人間性の育成について。医療現場では人間同士の繋がりがあり、本校卒業生(で就職した者)もしっかりしている。再就職後の状況を把握して欲しい。昔の方が厳しかったのか、就職したときにめげてしまうこともある。現場の厳しさをどこまで許容できるか、耐えられるかといったことも人間性育成面での課題である。(外部委員)

II 各評価項目について

項目	評価
基準1 教育理念・目的・ 育成人間像	学校理念について再確認をした。
基準2 学校運営	現在の運営状況について再確認をした。
基準3 教育活動	どこの学校もだと思われるが、学生のレベルにバラツキがある。卒業しても、できる者とできない者とに分かれ、個別対応が必要と思われる。学生一人ひとりの背景(家庭環境や年齢、職歴など)が異なり、学生のニーズも幅広い。 現場でも、読解力・文章力が乏しいスタッフが増えており、カリキュラムとしてそのようなものを入れられないか。
基準4 学修成果	学生個々にきめ細かい対応ができており、卒後まで就職先の確認ができているのは評価できる。
基準5 学生支援	人間関係や家庭環境なども複雑化しており、学校として様々な対応が必要であると同時に、業務的な大変さを感じる。

	また対学生だけではなく保護者等の対応も多いということで、いろいろと苦 労があるのではないかと。
基準6 教育環境	老朽化対応や視聴覚設備の充実などの検討があり、今後に生かして欲しい。
基準7 学生の募集 と受入れ	入試については面接試験が主体であり、客観的な評価のできる面接官の 育成を検討課題に掲げているので、取り組みを行って欲しい。
基準8 財 務	現在の法人全体の財務状況について確認をした。
基準9 法令等の遵守	個人情報の取り扱いについては、学校に限らずどこでも課題となっている 。名簿が作成できなかつたり、スタッフや患者さんの情報管理が漏れな いか神経を使ったりしている。学校でも成績を始め各種学生データを取り 扱っており、苦労はよく理解できる。
基準 10 社会貢献 ・地域貢献	老人ホーム・保健センター実習などの現状について確認した。
その他 国際交流	ロス研修のほか、中国からの研修生を受け入れたことについて報告及び 確認をした。

III 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果は、外部から見る本校の客観的な状況として捉え、今後の学校運営を考
える大切な情報であると認識している。よって学校関係者評価結果は、それらの内容に応じた部
門で共有され、各部門会議(運営者会議、教務委員会、教職員会議等)により、今後の課題の
抽出や対応策の検討に役立てられている。

項 目	評 価
基準3 教育活動	授業のアンケートを取るようになっているが、できていない科目もある。カリキュラ ムとしては、看護師の業務記録を取り入れ、実習先や病院で有効的に活用で きるようになっている。
基準4 学修成果	就職については希望アンケートを都度取るようにし指導に当たっている。
基準5 学生支援	学生健康診断について平成 29 年度より歯科健診も取り入れた。
基準6 教育環境	視聴覚設備の充実化を進めている。
その他 国際交流	中国の杭州口腔医院看護師との合同講義を継続して実施しており、今後の 定期的な交流が期待される。

以上